

What composers do to other composers...

作曲家が作曲家に出あうとき…何を感じ、何を与えたのだろうか？

変奏、再生、引用、補完、畏敬

偉大な才能は、異なる才能と出会い再発見されることとなる、そして再構築や再編成を経て、新たな音楽へと発展していくのだろう。

そこにあるのは、尊敬の念、創造への力となる出あいの喜びに違いない。



私は、札幌交響楽団首席指揮者に就任するにあたり、札幌を聴いていただくみなさまにはぜひ、演奏会が単に曲や奏者の思い出にとどまらず、音楽への興味や理解を深めてくれる、なにか今後につながるものにしていきたいと思っていました。

そこで2019-2020の定期演奏会のプログラムを考えていくにあたり、指揮者のみなさまにひとつのテーマを提示し、一緒に考えていただきました。

“What composers do to other composers...”

そのこたえは、主題に則った変奏だったり、異なる楽器編成への編曲だったり、作品の引用だったり、と様々です。しかしいづれにも共通するのは、作曲家たちの出あいにより色濃く縁とられることとなる音楽への情熱、それが感じられるところではないでしょうか。

私は、札幌交響楽団定期演奏会の1年間10のプログラムをひとつのテーマのもと開催される「シリーズ企画」として創り上げました。

この1年間のプログラムを通じ、みなさまには、ひとつのテーマを追い続けるプロジェクトに参加したように感じていただき、音楽的体験としてみなさまの心に深く残るようであってほしいと願っています。

マティアス・パーメルト(首席指揮者)

